



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

10月号—No.365

2025.9.25

(毎月1回25日発行)

【二重緑(ふたえみどり)】暗い青色。

藍染と黄檗染を重ねて染めた暗い青色。二重というのは色が濃いという意味。見た目は青なのに名前が緑なのは、古代の日本には「緑」という色彩語がなく、緑と青を区別しなかったことに起因する。青葉、青虫、青リンゴ、青田、青竹など緑なのに青というものは多いが、青なのに緑という用例はあまりない。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

令和6・7年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」終了報告

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ高知セッション開催のお知らせ／地域創造発行物のご案内／令和8年度「地域創造セミナー」実施団体募集／令和7年度「公立文化施設における政策評価等のあり方に関する調査研究」協力をお願い／「特別寄稿 ビューポイント view point」No.21掲載について

今月の情報..... 6

地域通信／特集 アートプロジェクト・芸術祭

今月のレポート..... 12

北海道奈井江町 まちじゅう音楽プロジェクト

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

●令和6・7年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」

福島でダンスと演劇のコラボレーションによる企画づくり

令和6・7年度 公共ホール 創造ネットワーク モデル事業

写真

左上：小学校でのアウトリーチ(会津若松市立城西小学校)

右上：美術ワークショップ(南相馬市)

左下：衣裳ワークショップ(三春町)

右下：舞台公演「はまなかあいつで『四季』全楽章を踊る」(白河文化交流館コミネス)

●公共ホール創造ネットワークモデル事業
公共ホール職員等の企画制作能力の向上と都道府県内の公共ホール間の連携の促進を目的に、都道府県等を中心に市町村の公共ホールが協働・連携して実施する2カ年事業。初年度には、①アーティストと参加する公共ホール職員等の相互理解を深める研修、②合宿によるアウトリーチ・プログラム開発と参加地域の小学校等での実施、2年目には、①異なるジャンルのアーティストが交流する舞台作品のクリエーション、②参加地域でのクリエーションに関連した地域交流プログラムの企画・実施、③参加地域における巡回公演を実施。

●令和6・7年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」実施体制
[主催]福島県、(公財)福島県文化振興財団、三春町教育委員会、(公財)会津若松文化振興財団、(公財)南相馬市文化振興事業団
[共催]一般財団法人地域創造
[アーティスト]多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)、森下真樹(ダンサー・振付家)

●舞台公演「はまなかあいつで『四季』全楽章を踊る」
[会場・日程]
白河文化交流館コミネス：7月27日
南相馬市民文化会館ゆめはっと：8月3日
三春交流館「まほら」：8月7日
會津風雅堂：8月24日
[演出]多田淳之介
[振付]森下真樹
[出演]伊藤奨、北川結、中村駿、森下真樹、原田つむぎ、各会場現地出演者



地域創造では、異なるジャンルのアーティストが交流することでより発展的で多様な企画づくりができる2カ年事業「公共ホール創造ネットワーク事業」(以下、創造ネット)を立ち上げ、令和4年度からモデル事業に取り組んでいます。令和6・7年度は、モデル事業の3地域目として福島県で事業を実施しました。福島県、福島県文化振興財団(福島県文化センター)を中心に、会津若松文化振興財団(會津風雅堂)、南相馬市文化振興事業団(南相馬市民文化会館ゆめはっと)、三春町教育委員会(三春交流館「まほら」)が参加。演劇とコンテンポラリーダンスのアーティストが交流したアウトリーチプログラムの開発、地元の子どもたちも出演した舞台作品の創作・巡回公演等を実施しました(休館中の福島県文化センターに替わって白河文化交流館コミネスで実施)。

●演劇×コンテンポラリーダンス

創造ネットではモデル地域との協議によって内容を詰めていくため、業務内容も異なってきます。今回は右頁表のような取り組みが行われました。

参加したアーティストは、協働作業が初めてとなる演出家の多田淳之介さん(リージョナルシアター事業アドバイザー兼派遣アーティスト)とダンサー・振付家の森下真樹さん(公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト)です。

9日間にわたるアウトリーチプログラム開発合宿には、アーティストと、アシスタントとしてアウトリーチについて実地に学ぶ地元劇団の俳優2名、参加館の担当者、事務局を務める福島県文化振興財団、地域創造スタッフなど計18名が参加しました。完成した小学校のプログラムでは、森下さんのワークショップでは定番の名前を身体で表現する自己紹介を入りに、多様な音具や身近な日用品の音に合わせた身体遊びから全員が巨大な新聞紙と戯れるフィナーレへと展開。反応を見ながら多田さんがオペレーションする音楽に誘われ、プログラム全体としての流れと高揚感が生まれていました。

また、2年目には20日間をかけて多田さんの演出、森下さんの振付・出演、俳優の原田つむぎさん(国見町地域おこし協力隊)、ダンサー

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

の伊藤奨さん、北川結さん、中村駿さんが出演する舞台作品の創作が行われました。ベートーヴェン「運命」「第九」全楽章を踊っている森下さんの活動を踏まえ、2024年9月にはヴィヴァルディの「四季」をモチーフにする作品の方向性が決まり、出演者、舞台美術家、照明家といったクリエイションチームについて打ち合わせが行われました。

「はまなかあいつで『四季』全楽章を踊る」と題された作品は、ぬいぐるみやランドセル、過去の公演チラシや新聞紙といった“福島”の記憶を詰め込んだたくさんの袋で福島県の地形を表し、大きな木の枝、スクリーンに映し出された映像でつくり出された空間で上演。「春」「夏」「秋」「冬」の各楽章の初めに原田さんによるソネットの語りが入る演出で、春の訪れや子どもたちの夏の思い出、秋の実りなど福島の風景と重なる音楽と踊りが展開しました。

全体を統括した福島県文化振興課の山崎有紀さんは、「この事業を行うにあたって県内

の公立ホール25館にアンケート調査を行いました。その中で『新しい取り組みをしたいがノウハウがない』といった回答をしたところに改めてヒアリングし、事業に賛同いただいた団体に参加してもらいました。みんなで連携して取り組む、仲間がいることで心理的なハードルも下がり、頑張れたと思います」と話します。

また、スケジュール調整、契約、予算管理、会場手配など制作事務局を務めた福島県文化振興財団の草野敦さんは、「新作という、内容が流動的な事業の事務局を担うのは大変でした。でも現場を経験して、クリエイションは決まった通りにいくものではないのが腑に落ちました。総額予算の中で交渉しながら調整しました。本格的に市町村ホールと協働したことも初めてでしたが、みんなが汗をかいてくれました。一緒に取り組むことでお互いの姿を見ながら学ぶことができ、これからも相談できる関係が築けたと思います。本当に勉強になりましたし、何より楽しかったです」と振り返っていました。

多田淳之介コメント

演劇は「人間」なので人間世界にとどまるところがあるが、ダンスは「身体」なので想像したこともない世界に行ける可能性がある。森下さんとの協働でそういう流れができればいいと思った。森下さんのダンスや音遊びのワークに僕が音楽やその他の要素をプラスし、参加者が創造したことをどう繋げたら面白くなるかを考えながらアウトリーチプログラムをつくった。舞台作品では、森下さんがベートーヴェンを踊っていたので、何か曲を決めて取り組めればと思った。福島をテーマにした時にドヴォルザークという案もあったが、森下さんからヴィヴァルディの『四季』をモチーフに再構成したマックス・リヒターの曲『四季』があると聞き、両方の音楽を使うコンセプトができた。ダンスと一定の距離を取るために俳優をキャストした。

森下真樹コメント

ダンスのすぐそばに演劇があると思いつつながら簡単に飛び越えられない壁のようなものを感じていた。多田さんとならその壁を取り払えるのではないかと考えた。自分がやってきたことから提案できるものを提案したら、多田さんが違う角度からツッコンでくれて。音の演出もしてくださるので、自分ひとりでは思いつかなかった方向に行くことができた。アウトリーチが、自分らしい表現を恐れず、人との違いをむしろ楽しめるような場、自由にいろんなものが出しあえるような場、人と繋がる幸せな時間になればいいと思っている。

●創造ネット福島県の取り組み

時期	内容
2023年度(準備年)	福島県、福島県文化振興財団、地域創造による協議(アーティスト選定、参加館調整など)
2024年度(1年目)	4月11日、5月31日 全体会議(福島県、福島県文化振興財団、参加館、アーティスト、地域創造) 会場:福島県文化センター
	6月21日 事業関係者を対象にしたアーティストのワークショップ体験 会場:福島県文化センター
	7月19日、8月22日 福島県、福島県文化振興財団、参加館によるオンライン打ち合わせ
	9月4日～6日 アウトリーチ先の下見
	9月11日～15日、19日～22日 アウトリーチ研修(アーティストと参加館によるアウトリーチのプログラムづくり、参加館を対象にした講義) 会場:福島県男女共生センター
	9月25日 アウトリーチ研修(二本松市立二本松南小学校で5年生を対象にアウトリーチの実施と振り返り)
	9月～ アーティスト、福島県、福島県文化振興財団、参加館、地域創造によりヴィヴァルディ『四季』をモチーフにするという作品の方向性、地域交流プログラムは高校生を中心に実施する旨の方向性、クリエイションチーム(座組)についての打ち合わせを随時行う
	10月～ 福島県文化振興財団(制作事務局)によるクリエイションチームに関する各種調整
	10月31日～11月15日 会津若松市、南相馬市、三春町で各地4回ずつアウトリーチ・プログラムを実施(小学校および福祉施設対象)
	12月12日 全体会議(1年目の取り組みの振り返りと2年目に実施する地域交流プログラム等の打ち合わせ) 会場:福島県文化センター 休館中の管理事務所
	3月 スタッフによる公演会場下見、地域交流プログラムの企画決定・スケジュール調整
	3～6月 多田、森下、出演者によるプレ稽古 会場:森下スタジオ(東京)ほか
	5月～7月 地域交流プログラム実施/振付ワークショップ(白河市立図書館)、舞台美術ワークショップ(南相馬市民文化会館ゆめはっと)、振付&照明ワークショップ(会津若松市文化センター)、衣裳ワークショップ(三春交流館「まほら」)
	6月26日～7月21日(内6日オフ) 「はまなかあいつで『四季』全楽章を踊る」クリエイション(多田、森下、出演者4名、スタッフ) 会場:森下スタジオ(東京)、たなか舞台芸術スタジオ(東京)
2025年度(2年目)	7月23日～27日 白河公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(27日) ※「しらかわ演劇塾」ジュニアクラスメンバー出演
	7月31日～8月3日 南相馬公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(3日) ※南相馬市内の小学校児童有志出演
	8月4日～7日 三春公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(7日) ※三春UNITEDanceClub小学生メンバー有志出演
	8月21日～24日 会津若松公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(24日) ※レオキャッツダンスムーブメントスタジオ小学生有志出演

●公共ホール創造ネットワークモデル事業に関する問い合わせ
芸術環境部 渡邊・今野
Tel. 03-5573-4143

財団からのお知らせ

●ステージラボ高知セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象として、事業の企画制作や施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面の運営に欠くことのできない要素を体得することを目的に開催する研修事業です。ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視した少人数ゼミ形式の実践的な内容が特徴です。

令和7年度の後期セッションは、高知市文化プラザかるぼーにて3コースで開催します。詳細や参加者募集は、次号(11月号)の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。



令和7年度ステージラボ茅野セッションの様子
(ホール入門コース最終日の成果発表)

◎ステージラボ高知セッション概要

[日程] 2026年2月24日(火)～27日(金)

※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ2月24日(火)～26日(木)

[会場] 高知市文化プラザかるぼーと
(高知県高知市九反田2-1)

[開講コース(予定)と対象となる職員の目安]

●ホール入門コース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方

●自主事業コース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方

●公立ホール・劇場マネージャーコース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ方

●地域創造発行物のご案内

文化・芸術を通じた地域づくりの事例などを紹介する雑誌『地域創造』のバックナンバーや、地域創造レターで長年にわたって連載してきた制作基礎知識シリーズを中心にまとめたハンドブック『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』などは、地域創造のホームページから入手申し込みが可能です。

*入手方法はこちらからご確認ください。 <https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/>



『地域創造』第50号
特集:文化交流施設/
共生共創



『地域創造』第49号
特集:アート×社会教育/
シアターデビュー



『地域創造』第48号
特集:ニューオープン/
育成環境を考える



『公立ホール・劇場職員のた
めの制作基礎知識 増補版
2021年』

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 児島・嶋崎
Tel. 03-5573-4183

●地域創造発行物に関する問い合わせ
芸術環境部 中嶋
Tel. 03-5573-4066

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和8年度「地域創造セミナー」 実施団体募集

都道府県が主催する地方公共団体職員および公立文化施設職員等を対象とした研修会に対し、地域創造が講師派遣費用を負担する「地域創造セミナー」の令和8年度実施団体の募集を開始します。

本事業が対象としている研修会は、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに加え、都道府県下における文化芸術団体の相互連携や、文化芸術団体と他の領域の団体のネットワーク構築など広域的な連携強化を目的とする内容等としています。講演会のテーマや内容は、申請する都道府県の課題や今後取り組みたい施策などを基に決定します。研修会は、講師による講演のほか、テーマや要望に応じてワークショップを実施することが可能です。

地域課題に対する文化・芸術の視点での検討や、地方公共団体をはじめとする多様な主体の連携による広域的な文化・芸術を活用した新たな施策等の検討など、これからの地域の取り組みを考える上で有益な情報を有識者や先駆者から得ることのできる絶好の機会となりますので、ぜひご活用ください。

募集締切：2025年10月31日(金) 必着



令和7年度セミナーの様子(三重県/講師：朝倉由希氏)

●令和7年度「公立文化施設における政策評価等のあり方に関する調査研究」協力のお願い

当財団では、時宜に即したテーマについての調査研究を実施し、各地方公共団体・公立文化施設の文化・芸術を通じた地域づくりに役立てていただけるように財団ホームページや報告書等で情報公開を行っております。

令和7年度は、「公立文化施設における政策評価等のあり方に関する調査」をテーマに、事

業や施策の価値を可視化し、今後の事業展開や施設運営につなげていくような評価のあり方について調査を行っております。今年度につきましては、「評価」の実態把握のためのアンケートを実施する予定です。

10月下旬(予定)より各地方公共団体および対象の公立文化施設へ調査に関するご案内をお送りいたしますので、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.21 掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

21回目となる今回は、公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティストの北村成美氏にご寄稿いただきました(8月25日更新)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column21.html>



●北村成美 (ダンサー・振付家、湖南ダンスカンパニーディレクター)

通称しげやん。「生きる喜びと痛みを謳歌するたくましいダンス」をモットーに国内外でソロダンス作品を上演するほか、日本各地で市民参加による大型コミュニティダンス作品を発表。劇団やダンスカンパニーへの振付、音楽家や美術家との共同製作、CM振付や映像作品など数多く取り組む。



●「地域創造セミナー」実施要項・申請書は当財団ホームページからダウンロードできます。郵送でお申し込みください。

◎問い合わせ
芸術環境部 中嶋
Tel. 03-5573-4066

●調査研究に関する問い合わせ
芸術環境部 中嶋・児島・嶋崎
Tel. 03-5573-4066

●特別寄稿 ビューポイント view point
に関する問い合わせ
芸術環境部 伊藤
Tel. 03-5573-4093

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 伊藤・中嶋

●2025年12月号情報締切
10月20日(月)

●2025年12月号掲載対象情報
2025年12月～26年3月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌コンサートホールKitara
〒064-8649 札幌市中央区中島公園1-15
Tel. 011-520-2000 川本孝
<https://www.kitara-sapporo.or.jp/>

第26代札幌コンサートホール 専属オルガニスト 赤枝 サンテ ソン 留果 デビューリサイタル

札幌コンサートホールKitaraのシンボルであるパイプオルガンの魅力を広く世界へ向けて発信する専属オルガニスト。今年の9月より第26代専属オルガニストに就任したばかりの赤枝サンテソン留果によるデビューリサイタルを開催する。日本をルーツにもつオルガニストによる、Kitaraの新たなシーズンが幕を開ける。
[日程] 10月11日
[会場] 札幌コンサートホールKitara

●岩手県盛岡市

岩手県立美術館
〒020-0866 盛岡市本宮字松幅12-3
Tel. 019-658-1711 加藤俊明
<https://www.ima.or.jp/>

岩手県文化振興事業団創立40 周年記念事業 澤田哲郎展

盛岡市出身の画家・澤田哲郎(1919～86)の未公開作品を含む展覧会。50年近い画業の中で具象画、抽象画、幻想画と次々に作風を変えた背景には、戦前の上京やシベリア抑留、ニューヨークでの制作活動といったドラマがあり、貴重な写真資料を基に彼の師である藤田嗣治や他の作家たちとの知られざる交流に迫る。

[日程] 10月15日～11月30日
[会場] 岩手県立美術館

●秋田県横手市

「みんなのMuseumプロジェクト」
実行委員会(事務局：秋田県立近代美術館)

〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46
Tel. 0182-33-8855 北島珠水
<https://akita-kinbi.jp>

みんなのMuseumプロジェクト企画 まるごと〇展

「みんなのMuseumプロジェクト」は、秋田県立近代美術館を中核にさまざまな機関、市民が連携・協働し、障がいの有無などにかかわらず、誰もがアートを通じて出会い、共に学びつながりあえる場の創出を目指す取り組み。今回は、多様なイメージが広がる「〇」をテーマに展示とワークショップを実施。藤浩志が約150人の学生と制作した作品《めぐるいきものもり》も展示される。

[日程] 9月13日～11月9日
[会場] 秋田県立近代美術館

●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス
〒970-8026 いわき市平字三崎1-6
Tel. 0246-22-7417 山崎優子
<https://iwaki-alios.jp/>

えほんでクラシック♪おひるまの夢 0歳からたのしめる、おんがくのたまてばこ

すべての子どもたちに贈る音楽鑑賞体験。童話『うらしまたろう』を、アリオス限定のアレンジで上演。物語を彩るのは、クラシック音楽(マリンバ・ヴァイオリン・ピアノ)、邦楽(箏・尺八・三味線)、そしてバンド(スティールパン・ドラム・ギターほか)による多彩な生演奏。さらに劇場の大画面には、この日限りの絵本イラストが映し出される。

[日程] 10月19日
[会場] いわき芸術文化交流館アリオス

関東

●埼玉県草加市

草加市文化協会

〒340-0013 草加市松江1-1-5
Tel. 048-931-9325 手塚雪香
<https://soka-bunka.jp/>

国際ハープフェスティバル2025 —草加市

国内最大級のハープの祭典。37回目を迎える今回のメインコンサートは、ジャズハープ界のレジェンド、パーク・スティックニーと箏奏者のLEOとの共演、公募で集まった参加者とハーピストによるアンサンブルなどを開催。ロビーではハープ体験も。プレイベントとして10月から気軽に楽しめるスポットコンサートや子ども向け企画も実施される。

[日程] 11月16日

[会場] 草加市文化会館



タッチ・ザ・ハープ

●埼玉県越谷市

越谷市日本文化伝承の館こしがや能楽堂

〒343-0015 越谷市花田6-6-1
Tel. 048-964-8700 荒井

<https://nohgakudou.kosi-kanri.com/>

第33回秋の調べ こしがや能

埼玉県で唯一の屋外能舞台で行われる、能『巻絹』と狂言『文山立』の公演。舞囃子・仕舞の上演もあり、公演前には法政大学の竹内晶子教授による演目解説が行われる。チケット購入者は公演当日に隣接する日本庭園



能『巻絹』 写真撮影：前島吉裕

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

「花田苑」も入場可能。
[日程] 11月1日
[会場] こしがや能楽堂

●東京都足立区

アートアクセスあだち 音まち千住の縁 事務局
〒120-0034 足立区千住1-25-1
東京藝術大学千住キャンパス気付 NPO法人音まち計画
Tel. 03-6806-1740 岡野・吉田
<https://aaa-senju.com/nomura>

野村誠 千住だじゃれ音楽祭「キタ!千住の1010人」

作曲家の野村誠を中心に展開する「千住だじゃれ音楽祭」は、地域の人たちが気軽にだじゃれを言い合い、そこから音楽を生み出し、市民と共につくり上げる音楽プロジェクト。今年は11年ぶりの開催となり、音楽が好きな方、楽譜が読めない方、だじゃれが好きな方など、公募で参加した“バラバラな1010人”が、見たことのない音楽でつながる演奏を本番で奏でる。
[日程] 10月12日
[会場] 千住スポーツ公園

●東京都府中市

JAZZ in FUCHU実行委員会
〒183-0023 府中市宮町1-40 KDX府中ビル9F (株)クレスト内
Tel. 090-6196-9313 田中郁雄
<https://jazzinfuchu.net/>

けやき音楽祭2025 JAZZ in FUCHU

2004年に府中市制50周年を記念して始まり、今年で18回目を迎える、市内約20カ所を会場にストリートジャズ形式にて開催する音楽祭。ジャズアレンジの曲であれば、演奏形態やジャンルは自由。「緑のまち、音楽でつながろう笑顔の輪!」をテーマに街全体を音楽で包み込む。出演者の選定から当日運営まで、すべて市民スタッフで主催し、運営を行っている。

[日程] 10月26日
[会場] 府中市内約20会場

●神奈川県秦野市

秦野市立宮永岳彦記念美術館
〒257-0001 秦野市鶴巻北3-1-2
Tel. 0463-78-9100 堀栄子
<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/genre/1000000000239/index.html>

企画展「グラフィックデザイナー 宮永岳彦」

大正に生まれ、昭和の激動期を駆け抜けながら、日本の復興と高度経済成長の時代に人々の夢や憧れをデザインで表現した洋画家・宮永岳彦(1919～87)。本展では、商業デザイナーとしても活躍した宮永が手がけたポスターや雑誌表紙、商品パッケージなどのグラフィック作品に加え、後年の美人画の大作も展示。社会と共に歩んだ宮永芸術の軌跡に迫る。
[日程] 6月7日～12月7日
[会場] 秦野市立宮永岳彦記念美術館

北陸・中部

●新潟県新潟市

新潟市芸術文化振興財団
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2
Tel. 025-224-7000 森田雅子
<https://www.ryutopia.or.jp/>

【能で味わう世界遺産 その式】秋の能楽鑑賞会(宝生流)～宝の島・佐渡～

昨年「佐渡島の金山」が世界遺産に登録されたことを記念して、世界遺産をテーマに能をお届けする。佐渡で晩年を過ごした能の大成者・世阿弥が自ら最高級と称した名作『井筒』のほか、佐渡と越後のお百姓のやり取りが楽しい狂言『佐渡狐』を上演。解説は、新潟市出身の芥川賞作家・藤沢周が務める。初心者でも楽しめるよう字幕タブレットも

貸し出す(有料)。
[日程] 10月5日
[会場] りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

●富山県高岡市

高岡市美術館
〒933-0056 高岡市中川1-1-30
Tel. 0766-20-1177 寶田陽子
<https://www.e-tam.info/>

伏木と能登ゆかりの名品を訪ねて 重要文化財特別公開 等伯仏画と洛中洛外図屏風／同時開催：祝100年！コレクションで振りかえる昭和

令和6年能登半島地震で被害を受けた伏木地域のシンボル・勝興寺に伝わる国指定重要文化財「洛中洛外図屏風」と能登ゆかりの絵師・長谷川等伯の作品を通して、地域文化の豊かさを認識する機会および美術に親しむきっかけを提供する展覧会。「地元でも公開される機会が少なく、ぜひ鑑賞してほしい」という思いで企画された。また、「昭和100年」を機に、昭和初期から1950年代に制作されたさまざまな収蔵品も展示される。
[日程] 9月20日～10月26日
[会場] 高岡市美術館

●富山県南砺市

じょうはな座開館20周年記念公演実行委員会
〒939-1865 南砺市城端1046
Tel. 0763-62-5050 竹村静香
<https://johanaza.jp/>

じょうはな座開館20周年記念公演 長唄・笛・舞踊会

伝統芸能の継承と現代文化の創造を通してまちの賑わいを育む拠点として、城端曳山祭の「庵唄」と城端むぎや祭の「むぎや踊り」といった地域に伝承される芸能の定期公演を行う「じょうはな座」が20周年を迎える。節目ごとに一流の伝統芸能

の鑑賞機会を設けており、今回は落成記念公演に出演した五世中村富十郎の子息、息女である中村鷹之資、芳澤きりるは20年越しに迎え、長唄や笛、舞踊を披露する。
[日程] 10月4日、5日
[会場] 城端伝統芸能会館「じょうはな座」

●石川県金沢市

石川県音楽文化振興事業団
〒920-0856 金沢市昭和町20-1
Tel. 076-232-8111 大海文
<https://www.oek.jp>

MANSAI CREATION BOX Vol.4 ～萬斎のおもちゃ箱～ 鷹姫とオーケストラ

野村萬斎が構成・演出・出演する新作能「鷹姫」を、広上淳一指揮のオーケストラ・アンサンブル金沢と共に上演。石川県立音楽堂アーティストティック・クリエティブ・ディレクターの萬斎とOEKアーティストティック・リーダーの広上は今回が初共演。シリーズでは初めて真正面から能に取り組み、囃子や謡にオーケストラの現代曲が加わった新しい舞台が創造される。
[日程] 10月18日
[会場] 石川県立音楽堂

●岐阜県多治見市

バロー文化ホール(多治見市文化会館)
〒507-0039 多治見市十九田町2-8
Tel. 0572-23-2600 加藤久佳
<https://www.tajimi-bunka.or.jp/bunka/>

バロー文化ホール3台ピアノ勢揃い!「3 pianos, 6 hands!」

スタインウェイ、ヤマハ、ペーゼンドルファーの3台のピアノをバロー文化ホール・大ホールに集め、岐阜県出身のピアニスト(古田友哉、谷口若菜、水野貴文)が、ピアノ3台のために編曲された『ボレロ』や『動物の謝肉祭』

などを演奏する。この公演を皮切りに10月26日まで「たじみ街あるき音楽ウィーク」が実施され、多治見駅周辺の5会場でさまざまなコンサートが行われる。
[日程] 10月18日
[会場] バロー文化ホール

●愛知県長久手市

長久手市文化の家
〒480-1166 長久手市野田農201
Tel. 0561-61-3411 坂元奈未
<https://bunkanoie.jp/>

文化の家野外劇場vol.2 宵祭『KONTON』

改修工事に伴う文化の家の休館期間に、文化芸術を引っ提げて街へ繰り出すプログラム「文化の家野外劇場」の第2弾。神社境内を舞台に、巨大スクリーンによる維新派の名作『トワイライト』の上映、喜劇のヒロイン・劇団サカナデ・老若男女未来学園による演劇公演『吉報』をはじめ、音楽やダンス、工作ワークショップ、大道芸、光のアートなど、さまざまな文化芸術が集結する“宵祭”を開催する。
[日程] 10月18日
[会場] 石作神社

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立美術館
〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1740-1
Tel. 077-543-2111 小井川理
<https://www.shigamuseum.jp/>

おさんぽ展

空也上人から谷ロジローまで

前期・後期にわたり一部展示替えをしながら、散歩や歩くことをめぐって生まれた、重要文化財2件を含む74作品を展示。地域で大切に守られてきた《空也上人立像》(滋賀・荘厳寺蔵)から西洋絵画や水墨画など、「散歩」という身近なテーマで時代や

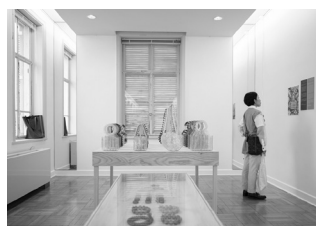
ジャンルを超えたさまざまな作品を紹介する。美術館は公園の中に位置し、秋色深まりゆく季節に“アートさんぽ”を楽しむことができる。
[日程] 9月20日～11月16日
[会場] 滋賀県立美術館

●京都市

京都市総合企画局国際都市共創推進室
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
Tel. 075-222-3072 嶋津のぞみ
<https://nuitblanche.jp/>

ニユイ・ブランシュ KYOTO in Residence

京都市の姉妹都市でもあるパリ市の現代アートイベントに着想を得て毎年秋に開催しているイベント。15回目を迎える今年は、京都市のアーティスト・イン・レジデンス事業「*** in Residence Kyoto」(アスタリスク・イン・レジデンス)とのコラボレーションによる特別バージョン。アーティスト・イン・レジデンスに焦点を当てた初の試みとして、公募で選ばれたアーティストが京都滞在中に制作した作品を市内会場にて披露する。
[日程] 9月27日～10月4日
[会場] 京都駅ビル、関西日仏学館、ヴィラ九条山、マガザンキョウト、船岡山公園(STUDIO MONAKA)ほか市内各所



昨年の展示の様子(関西日仏学館)

●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター
〒663-8204 西宮市高松町2-22
Tel. 0798-68-0206 萬福倫子

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター 開館20周年記念公演 『明日を落としても』

阪神・淡路大震災から30年の今年、震災からの「心の復興・文化の復興」のシンボルとして開館し20周年を迎えた兵庫県立芸術文化センターがプロデュースする記念公演。脚本をピンク地底人3号が新たに書き下ろし、栗山民也が演出を手がける。神戸の老舗旅館を舞台に、震災が起こる前と現在を巡り、人々が葛藤しながら新たな一歩を踏み出すまでを描いた物語を、佐藤隆太、牧島輝らの出演でお届けする。
[日程] 10月11日～16日
[会場] 兵庫県立芸術文化センター

●兵庫県芦屋市

芦屋市立美術博物館
〒659-0052 芦屋市伊勢町12-25
Tel. 0797-38-5432 川原百合恵
<https://ashiya-museum.jp/>

特別展「山崎隆夫 その行路 ある画家／広告制作者の独白」

洋画家・山崎隆夫の約60年にわたる画業を4期に分け、各時期を代表する作品35点を展示する。また、画家としての活動に加え、三和銀行や寿屋(現・サントリーHD)でアートディレクターを務め、多くの名作広告を手がけた山崎の広告の仕事についても公開。現存する資料180点を通じ、その全貌を紐解く。会期中はトークイベントやワークショップも開催。
[日程] 9月20日～11月16日
[会場] 芦屋市立美術博物館

中国・四国

●島根県益田市

島根県芸術文化センター「グラントワ」
〒698-0022 益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1860 新田直子

<https://www.grandtoit.jp/>

MUSEUM×THEATER vol.26 深響～音の満ちる空間～

MUSEUM×THEATER(ミュージアム×シアター)は、複合施設である島根県芸術文化センター「グラントワ」ならではの取り組みで、いわみ芸術劇場と石見美術館が協働で企画してきた。今回は開館20周年を記念し、グラントワを設計した建築家・内藤廣とチェリスト・宮田大の対談、コンサートを開催。劇場の設計へのこだわりや、音楽家にとっての「よい空間」などをめぐる対談に加え、西尾真実のピアノと宮田のチェロによる名曲の演奏を楽しむことができる。
[日程] 10月26日
[会場] 島根県芸術文化センター「グラントワ」

●広島県呉市

呉市立美術館
〒737-0028 呉市幸町4-9 入船山公園内
Tel. 0823-25-2007 渡辺千尋
<https://www.kure-bi.jp/>

呉市合併20周年記念

「美術にであう5つのとびら」

「呉であう美術」「わからない美術?」「手でふれる美術」「土地をいつくしむ美術」「平和をねがう美術」という5つのテーマで、呉市内の美術館施設が所蔵する作品を紹介する特別展。一部の彫刻作品などは手で触れることができ、視覚以外の感覚での作品鑑賞体験が可能。学芸員によるギャラリートークなどをはじめ、特別展を楽しむためのイベントも開催される。
[日程] 9月6日～11月3日
[会場] 呉市立美術館

●徳島県徳島市

徳島県立近代美術館
〒770-8070 徳島市八万町向寺山(文化の森総合公園内)

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 088-668-1088 三宅翔士
<https://art.bunmori.tokushima.jp/>

所蔵作品展 2025年度Ⅰ 「徳島のたからもの」

開館35周年を記念し、「徳島のたからもの」と題して、伊原宇三郎や山下菊二、三宅克己、廣島晃甫など、日本近代美術史に大きな足跡を残した徳島出身の作家たちの作品を中心に紹介する。また「描かれた徳島」「戦後80年—画家と戦争」などといったテーマで、さまざまな視点からコレクションの魅力に迫る。

[日程] 9月6日～11月30日

[会場] 徳島県立近代美術館

●香川県坂出市

香川県立東山魁夷せとうち美術館
〒762-0066 坂出市沙弥島字南通224-13

Tel. 0877-44-1333 一柳友子
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/higasiyamakaii/higashiyama/>

開館20周年記念 秋の特別展 東山魁夷の「窓」

風景画家として活躍した東山魁夷(1908～99)が風景をどのように見つめ、表現したのかを、“窓”をキーワードに探る展覧会。「暮らしの窓」「奏であう窓」「繋ぐ窓」「私の窓」という4つの視点から、暮らしに寄り添う街の窓や、リズムカルに連なる窓の描写のほか、水に風景が映る様子など広い意味で“窓”ととらえられる表現に注目し、多彩な作品を紹介する。

[日程] 9月6日～11月3日

[会場] 香川県立東山魁夷せとうち美術館



東山魁夷《窓》(1971年/紙本彩色/長野県立美術館 東山魁夷館蔵)

九州・沖縄

●佐賀県佐賀市



佐賀県立美術館
〒840-0041 佐賀市城内1-15-23
Tel. 0952-24-3947 渡部芳久
<https://saga-museum.jp/museum/>

売茶翁生誕350年特別展 「売茶翁と若冲」

佐賀藩の支藩・蓮池藩に生まれ、煎茶を広めた売茶翁と、代表作《動植綵絵》をはじめ生涯を通じ多くの作品を残した画家・伊藤若冲の関連作を中心に約130点を展示する。九州最大規模の若冲作品を揃えるほか、売茶翁から影響を受けたとされる池大雅や田能村竹田の作品も紹介。水墨画パフォーマンスや献茶式も行われるほか、茶室にて煎茶会などのイベントも行われる。

[日程] 10月7日～11月24日

[会場] 佐賀県立美術館

●熊本県熊本市

熊本市現代美術館
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3
Tel. 096-278-7500 岩崎美千子
<https://www.camk.jp/>

GⅢ-Vol.161 酒井一吉 幽語の回路

熊本・九州ゆかりのアーティストを紹介する「ギャラリーⅢ」の161回目の企画。長崎出身の酒井一吉は、祖父母が被爆者であるという背景をもつ。本展では、長崎市の《平和祈念像》に見られる「手」の造形を起点に、戦争体験を語り継ぐ証言者も少なくなりつつある今、「語り」をめぐる制度や身体性に光を当てる。聴覚や視覚に障害のある人の被爆体験にも着目し、“語るべき人の語れなかった証言”についても取り上げる。

[日程] 8月1日～10月19日

[会場] 熊本市現代美術館

●大分県大分市

大分市美術館
〒870-0835 大分市大字上野865
Tel. 097-554-5800 後小路・曾我
<https://www.city.oita.oita.jp/bunkasports/bunka/bijutsukan/>

Meet Bamboo! 丘の上のコレクションと竹との出会い

大分県内在住の若手竹作家・美術家6名が、大分市美術館のコレクション作品からインスピレーションを受けて制作した新作を展示する新しい形の展覧会。作家はそれぞれ選んだ作品と約1年向き合い、制作を行った。竹文化が切り開く未来の可能性を専門家と共に語りあうフォーラムや作家によるワークショップ、コンテンポラリーダンスとのコラボ企画なども展開。

[日程] 10月3日～11月16日

[会場] 大分市美術館

特集 アートプロジェクト・ 芸術祭

全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクト、芸術祭等を紹介します。

*開催地の北から順に掲載。
☑は会場、🗺は問い合わせ先です。
(➡は地域創造助成事業)

●青森県・岩手県三陸沿岸地域 9月～2026年3月

三陸国際芸術祭2025 醸ス

青森県八戸市から岩手県陸前高田市までの三陸沿岸地域を舞台にした国際芸術祭。今年は「醸ス(かもす)」をテーマに、13市町村から15の郷土芸能公演が開催されるほか、国際共同制作『髪長姫』の舞台公演も行う。また、三陸各地の祭りを広く発信する企画も充実。各地で幾世代もの伝承を経て根づき、今も脈々と受け継がれている郷土芸能の魅力を伝える。

☑青森県八戸市、岩手県釜石市、陸前高田市 ほか
☑三陸国際芸術推進委員会事務局 info@sanfes.com

●岩手県

9月26日～2026年2月

第78回岩手芸術祭

トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)を中心として、県内各地で美術展・舞台発表・文芸祭など、さまざまな催し物を開催する総合芸術祭。10月4日には総合フェスティバルとしてバレエや伝統芸能、合唱などの舞台公演、式典を開催し、4日・5日には、芸術体験イベントも実施。総合フェスティバルの様子はライブ配信予定。

☑トーサイクラシックホール岩手ほか岩手県内各所
☑岩手芸術祭実行委員会事務局 Tel. 019-654-2235

●山形県山形市

10月9日～16日

山形国際ドキュメンタリー映画祭2025

1989年に山形市施行100周年を記念し、アジアで初の国際ドキュメンタリー映画祭として開催。以降、行政と市民の協働により隔年開催されてきた。世界中から集まる多彩なドキュメンタリー作品の上映に加え、人との出会いが生まれるイベントも数多く実施されている。今回は8日間で約130作品を上映。映画祭や地域文化の原点を見つめ直す特集プログラムを揃える。

☑山形市中央公民館、山形市民



2023 フェアウェル・パーティーの様子

会館、フォーラム山形、やまがたクリエイティブシティセンターQ1、旧吉池医院 ほか
[○]認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭
Tel. 023-666-4480

●茨城県桜川市

9月21日～11月23日

雨引の里と彫刻2025

桜川市の里山や集落を舞台に行われる彫刻展。1996年の初回から2、3年に一度開催され、開催30年目で13回目を迎える今年は参加作家35名によるさまざまな表現方法で制作された作品群が設置される。10月12日、11月9日には作品鑑賞のためのアーティストトーク付きのバスツアーを開催(要予約)。
[○]桜川市高久、羽田、大国玉、阿部田地区
[○]桜川市生涯学習課(大和ふれあいセンターシトラス内)
Tel. 0296-20-6300

●栃木県鹿沼市

11月8日～11月23日

AWANO 夢咲く ART FESTIVAL

公立中学校を中心に開催されるアートフェスティバル。2016年に鹿沼市立栗野中学校に赴任した美術教師が、生徒に本物の美術作品を見せたい、作家と共に鑑賞会をしたいという思いから始まり、今年で8回目を迎える。美しい里山の風景の中、廃校になった学校などを利用して、絵画や彫刻などの展覧会をはじめ、アートステージやワークショップ、マルシェなどにより、誰もがさまざまな



昨年の展示風景(旧栗野中学校/アーティスト:顔慧)

な芸術文化を間近で鑑賞し体験し、親しむことができる。
[○]鹿沼市立栗野中学校、旧栗野町立栗野中学校ほか
[○]特定非営利活動法人花と芸術の街・あわの実行委員会
mail@awanoartfestival.com

●千葉県柏市

10月10日～11月9日

アートラインかしわ2025 —栞花繚乱—

街中でのアート展示を中心に、柏駅周辺で毎年秋に開催されるアートプロジェクト。20回目となる今年のテーマは「栞花繚乱」。川上和歌子による布で出来たタンポポの巨大彫刻をはじめ、街中にアートが咲き誇る。駅前通り歩行者天国で行われる音楽に合わせて30人のアーティストが30号のキャンバスに絵を仕上げる「ライブペインティング30 vs 30」など、イベントも多数開催予定。
[○]JR常磐線・東武アーバンパークライン柏駅周辺ほか
[○]JOBANアートラインかしわ実行委員会 Tel. 04-7167-4455
(平日10:00～17:00)



昨年の「ライブペインティング 30 vs 30」

●東京都千代田区、中央区、文京区、台東区

10月17日～12月14日

東京ビエンナーレ2025

いっしょに散歩しませんか?

東京のまちに国内外からアーティストやクリエイターが集まり、地域を巻き込んで行う2年に1度の国際芸術祭。総合プロデューサーはアーティスト・東京芸術大学教授の中村政人。3回目の

今回は「いっしょに散歩しませんか?」をテーマに、まちを歩く芸術祭としての魅力を探究。「さんば大学特別課外講義」では社会学者の吉見俊哉と散歩ツアーに出掛け、「看板建築プロジェクト」では、看板建築の名付け親である藤森照信のレクチャーも開催される。
[○]拠点展示:エトワール海渡リビング館、東叡山 寛永寺/展示エリア:上野・御徒町エリア、神田・秋葉原エリアほか6カ所
[○]一般社団法人東京ビエンナーレ Tel. 03-5809-1653

●東京都墨田区

9月1日～12月21日

隅田川 森羅万象 墨に夢

すみだ北斎美術館の開館を機にスタートし、今年で10回目を迎える。森羅万象あらゆる表現者がつながり、すみだの地を賑やかに彩ることを目指し、「北斎」「隅田川」をはじめ、地域資源を活かす公募企画には伴走支援を行う。今回も多彩な公募企画11件と主催企画「すみゆめ踊行列: SUMIBON」、KOSUGE-1-16「どこどこ!巨大紙相撲～北斎すみゆめ場所」を開催。
[○]隅田公園、北條工務店となり、ユートリヤほか墨田区内各所
[○]「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会事務局
Tel. 03-5608-5446
(平日9:30～16:30)

●福井県若狭町

8月21日～11月16日

第3回熊川宿若狭芸術祭2025

若狭と京都との交易の拠点として発展した宿場町・熊川宿エリアを舞台にした芸術祭。3回目の今回は「臨場と共生」をコンセプトに、短期滞在制作を行い完成した作品の展示や、日本やアジアの作家が集う展覧会、東京フィルハーモニー交響楽団の一

流奏者と福井ゆかりのアーティストが共演するコンサートなどを実施。性別や年齢、国籍、障がいの有無を問わず、多様な表現者が集い、熊川宿から「生きた芸術」を発信していく。
[○]若狭町 熊川宿エリア
[○]熊川宿若狭芸術祭実行委員会事務局(福井県文化振興事業団) Tel. 0776-38-8280



公開滞在制作プログラム「臨場」の様子

●京都市 10月4日～26日

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2025

2010年に始まった、芸術表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指すフェスティバル。フィールドワークを通して京都や関西の文化を探索するリサーチプログラム、国内外の先鋭的なアーティストの作品を紹介する上演プログラム、出演アーティストや多様な専門家によるトークやワークショップが気軽に体験できるエクスチェンジプログラムの3本柱で構成。今年は松尾芭蕉の俳句「松茸や知らぬ木の葉のへばりつく」をキーワードに掲げ、見知らぬものへの違和感や差異からくる分断へのささやかな抵抗を提案する。
[○]ロームシアター京都、京都芸術センター ほか
[○]KYOTO EXPERIMENT事務局
Tel. 075-213-5839

●神戸市

8月23日～11月30日

神戸六甲ミーツ・アート2025 beyond

六甲山の豊かな自然の中を散策

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

しながら楽しめる、現代アートの芸術祭。16回目の開催となる今年は「環境への視座と思考」をテーマに、国内外から61組のアーティストが参加し、より広く多様な視点で「環境」を見つめ直すきっかけとなることを目指す。自然の中で子どもたちが現代アートにふれられる機会となるワークショップなども開催される。

☑ミュージアムエリア(ROKKO森の音ミュージアム、六甲高山植物園、新池)ほか六甲山上各所
☑神戸六甲ミーツ・アート事務局
Tel. 078-891-0048



白水ロコ《山の精霊たち》(六甲ガーデンテラスエリア)

●奈良県奈良市

10月25日～11月29日

古都祝奈良(ことほぐなら) 2025-2026 演劇・美術プログラム

2016年に東アジア文化都市に選定されたことをきっかけに始まった奈良市内で展開するアートプロジェクト。昨年に続き田上豊(劇作家・演出家)をプログラムディレクターに迎え、「今ならこれ奈良」をテーマに公募した演劇作品をまちなかで上演する「まちなか舞台」のほか、火を囲み対話を通じて学びあう「グリーン・マウンテン・カレッジ」などを開催する。

☑ならまちセンターほか奈良市内各所
☑奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局(奈良市文化振興課内) Tel. 0742-34-4942

●和歌山県白浜町

11月1日～4日

白良浜deひらひらTシャツアート展

和歌山県内の福祉施設や企業、行政が携わる「福祉×アート×観光」事業として募集した絵などをプリントしたTシャツを、日本の快水浴場百選にも選ばれた美しい白良浜に展示するバリアフリーアートイベント。さまざまな場所からアート作品が鑑賞できるような展示の工夫や、砂浜で走行できる車いすを用意するなどバリアフリーに取り組むほか、福祉施設や障がいのある人による青空マーケットやコンサートも開催される。

☑白良浜

☑しらひらバリアフリーアート実行委員会 Tel. 0739-33-2278

●鳥取県大山町ほか

11月1日～11月16日

イトナミダイセン藝術祭2025

鳥取県西部の大山の麓で、「イトナミ」そのものをアートにすることをテーマに開催されるアートイベント。期間中はギャラリー常設展のほか、各々が作成した刺繍を集め、期間中にアイヌ刺繍作家の四辻藍美と一緒に大きな旗を製作する「みんなちくちくひとつなぎの旗プロジェクト」をはじめ、さまざまな幅広い層が楽しめるワークショップやイベントが開催される。

☑大山町、琴浦町、伯耆町各所
☑こっちの大山研究所

Tel. 080-4026-6017

●岡山市

10月31日～11月3日

劇作家フェスティバル2025 「げきじゃ!」

1994年に始まった日本劇作家協会主催の「日本劇作家大会」が、より多くの人に演劇のさまざまな面にふれてもらうことを目指し、「フェスティバル」へと名を改めて2019年以来6年ぶりに開催

される。今回は「新体験と創造」「次世代と創造」「活気と創造」をテーマに、講演やシンポジウム、ワークショップのほか、おなじみの劇作家が続々と登場する豪華な文士劇リーディング(作: 平田オリザ、演出: 瀬戸山美咲)など、さまざまな企画が実施される。

☑岡山芸術創造劇場ハレノワ

☑劇作家フェスティバル「げきじゃ!」事務局 hello@gekija.jp

●愛媛県砥部町ほか

10月18日～11月3日

art venture ehime fes 2025

愛媛県と東京藝術大学が協働する「art venture ehime」(アートベンチャーエヒメ)の取り組みを広く周知するため、愛媛県内4エリアを会場に、国内外24組のアーティストが地域の人々と共に作り上げた作品や体験型プロジェクトなど、多様な表現を体感できる参加型のアートフェスティバルを開催。「ここにある豊かさ」をテーマに、ここにしかない作品が展開される。

☑とべもり+(プラス)エリア(えひめこどもの城、愛媛県立とべ動物園、愛媛県総合運動公園、えひめ森林公園)ほか3エリア

☑art venture ehime(愛媛県×東京藝術大学)事務局

Tel. 089-947-5581



参加希望アーティストが展示候補場所を見学するアートコミュニケーションツアーの様子(愛媛県立とべ動物園)

●北九州市

10月18日～12月7日

2025北九州国際音楽祭

1988年に市制25周年を記念し

て創設され、北九州市の秋の風物詩として親しまれる音楽祭。38回目の今年は「Spark! 今、この瞬間に!」というキャッチフレーズの下、国内外で活躍するアーティストが集結し、ここでしか聴けない共演を繰り広げる。オリジナルオーケストラによるコンサートのほか、音楽との出会いとなる幼稚園、小・中学校対象の教育プログラムなど、さまざまな企画が用意されている。

☑北九州市立響ホール、西日本工業倶楽部

☑響ホール音楽事業課

Tel. 093-663-6661

●熊本県小国町

10月4日～11月3日

小さな国 十月 Small Land Project

熊本・阿蘇の小国町を舞台に開催されるアートと学びの祭典。「持ち寄って、持ち帰る」をテーマに、小国町に滞在した研究者(リサーチャー)やアーティストが得た知見を「国際小国学」として発信する。また、坂本善三美術館の開館30周年記念展や、隈研吾と日比野克彦と共に小国の町並みを巡るツアーなどを実施。総合ディレクター・遠山昇司と小国高校の生徒による映像インスタレーション作品は熊本市現代美術館で展示される。

☑坂本善三美術館、小国シネ・ホールほか小国町内各所

☑小さな国実行委員会

small.land.project@gmail.com



研究者によるリサーチの様子。写真右からリサーチャーの原田真紀氏、松村圭一郎氏、井上岳一氏

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

北海道奈井江町

まちじゅう音楽 プロジェクト



上:「日常のドレミ演奏 西村直晃 病院ロビー
コンサート」(8月1日)

下:「ちょっと音痴な音楽会—オタマとノコが
出会う夏—」(8月2日)

写真提供: ないえ共奏ネットワーク

●まちじゅう音楽プロジェクト

「まちじゅう音楽」を合言葉に、誰でもどこでもいつでも音楽にふれることができ、世代を超えて誰もが音楽を通じてつながることを目指す。演奏会やワークショップなどの音楽イベントだけでなく、公共空間のBGM化やストリート楽器の設置、地元米を使ったオリジナルの木製ミュージックシェーカーの開発・販売、ゲストハウス「泊まれる音楽室」開設など、幅広い活動を展開。

*1 地域活性化起業人

地方公共団体が、三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かしながら地域独自の魅力や価値の向上等に繋がる業務に従事してもらい、地域活性化を図る国の取り組み。受け入れた社員に係る人件費を特別交付税により支援(年間590万円まで)。

*2 一般社団法人ないえ共奏ネットワーク
地域再生推進法人の指定を受けたまちづくり会社。町と連携しながら、就業機会の拡大、ふるさと納税の増収、空き店舗・空き家活用、音楽によるまちづくりなどに関する事業を手がける。

地域おこし協力隊や地域活性化起業人^(※1)といった総務省の制度を活用し、「まちじゅう音楽プロジェクト」を推進している北海道奈井江町(人口は2025年6月現在4,658人)。担い手の受け皿となる(一社)ないえ共奏ネットワーク^(※2)を設立し、JR奈井江駅前にある音楽専用のコンチェルトホール(246席)を拠点に活動。8月1日、2日にまちじゅう音楽プロジェクトの催しが行われていた奈井江町を訪ねた。

1日に町立病院ロビーで行われていたのは、翌2日にホールで開催される「ちょっと音痴な音楽会」に出演するのこぎり演奏家の西村直晃さんによるアウトリーチだ。2日には、前任の協力隊員が流行らせたというオタマトーンを愉快地演奏するおたましまい、町民によるオタマトーンバンド「ずどーんず」も出演。協力隊員は揃いのユニフォームでスタッフとして走り回っていた。



奈井江町が立地する空知地方はかつて炭鉱で栄え、1960年代には同町の人口も2万人を超えていた。しかし、相次ぐ閉山で過疎化が進展。全国的に注目されていた中新田バッハホールの影響などもあり、93年に地域総合整備事業債を活用して町のシンボルとなるコンチェルトホール(奈井江町文化ホール)を建設した。

それから30年近くを経て持ち上がったのが「まちじゅう音楽構想」だ。教育委員会の井内啓太文化振興主幹は、「2021年頃から外部専門家とまちづくりを議論する中、ホールがあるのだから音楽をまちづくりの一つの柱にできると考えた」と振り返る。そして22年には「まちじゅう音楽」を位置付けた「生涯活躍のまち」を取りまとめ、「誰もが躍動し、寄り添い集う全世代共奏のまちづくりプロジェクト」として国の地方創生推進交付金事業に採択された。

まず取り組んだのが人材の確保と推進体制の要となるまちづくり会社「ないえ共奏ネットワーク」の設立だ。音楽に特化した協力隊員を募集、地域活性化起業人を採用し、町役場の職員を含めて全員が「ないえ共奏ネットワーク」に所属し、70人体制でプロジェクトを推進。ネットワークには取り組む内容ごとに担当チームが

設けられ、まちじゅう音楽チームには町職員2名、起業人2名、協力隊員4名が所属する。

協力隊員の東留美香さんは札幌出身で着任3年目。「東京のポップス業界で約20年働いていたが、地域のイベンターと仕事をするなか、地元のために働いているたくさんの人がいることを知った。私も自分の経験やスキルを活かしてまちづくりに関わりたいと応募した」と話す。

(株)ニコン日総プライムから派遣され、ネットワーク参与を務める起業人の川畑伸也さんは旭川育ち。ニコンで38年間デザイン畑を歩み、セカンドキャリアとして奈井江町に出向。ヴィジュアルデザインや協力隊のまとめ役として欠くことのできない存在になっている。同じく起業人で参与の長野夏織さんは、まちづくり構想の策定段階から関わる(一社)つながる地域づくり研究所からの派遣だ。ミューザ川崎やロームシアター京都でホール運営に携わるうちに、まちづくりに興味が募ったという。

そんな多士済々の音楽チームでは、自由に事業アイデアを出しあっている。流しソーメンや怪談ライブなどのイベントに合わせた無料コンサート、楽器演奏のできる隊員による音楽スクール、自宅に眠る楽器を始めたい人に受け継ぐ「思い出楽器市」、空き家を使ったゲストハウス「泊まれる音楽室」。今年6月には「まちじゅう音楽部」もスタートした。毎回テーマを決めて、一杯飲みながら町の人たちと音楽談義をして楽しむ。フォークソングをテーマにした第1回では、弾き語りが趣味の川畑さんがホストを務めた。

まちじゅう音楽に刺激された活動も始まっている。ずどーんずに参加している湯浅郁香さんは、「協力隊に誘われてオタマトーンを始めたら、グループまで出来て、この音楽会を目標に活動している」と話す。今年6月には経験者を中心に吹奏楽グループ「ないえプラス」も立ち上がった。

ネットワークの事務所にはみんなで作成したイラストマップ「203Xのまちじゅう音楽マップ」が掲げられていた。関わる人々がそのイメージを共有し、土壌を耕している。東さんは退任後も協力を続けたいというなど、プレイヤーは増え続けている。(ライター・田中健夫)